入院患者の興味あるリハビリと外出練習
～運動 FIM に注目して～

○古谷元輝(OT)，田邊夏美(OT)，宮本美恵子(NS.)，橋本康子(Dr.)
医療法人社団和風会　橋本病院

【はじめに】
生活行為向上マネージメント(以下 MTDLP)は、対象者の生活行為の実現の為に行動計画をたてるように設計されており、作業療法士の積極的な使用が推奨されている。そこで、当院の回復期リハビリテーション病棟の入院患者に、MTDLP の興味・関心チェックシートを用いて、リハビリとしてどのような生活行為の練習を希望するかを聞き取り調査した。また、入院患者の運動 FIM に焦点を当て、入院中に実施した外出練習の行き先や内容の実態調査を行った。

【方法】
2014 年 12 月 22 日～2015 年 4 月 21 日に当院回復期リハビリテーション病棟に入院していた全 131 名のうち、本研究の主旨に同意を得られ、MMSE が 23 点以上の 25 名(男性 8 名、女性 17 名、平均年齢 75 歳±12.1 歳)とした。

【結果】
① 興味・関心チェックシート
セルフケアの項目を選択した患者(以下 A 群)は 36%であり、運動 FIM の平均は 55,1 点であった。選択された比率が高かった項目は排泄、入浴、睡眠であった。
IADL・活動の項目を選択した患者(以下 B 群)は 64%であり、運動 FIM の平均は 70,2 点であった。選択された比率が高かった項目は散歩、買い物、家の庭の手入れ、家族との団欒であった。
② 外出練習
25 名中 15 名の患者が外出練習を実施していた。内訳は A 群 5 名、B 群 10 名であった。A 群の外出先は全て自宅であり、目的は家屋調査や動作練習であった。B 群の外出先は自宅、スーパー、外食、教習所の順で多く、目的は家屋調査や動作練習に加え、買い物練習、注意機能の評価、金銭管理の練習、モチベーションの向上であった。

【考察】
当院の入院患者に興味のあるリハビリと外出練習の調査を行い、A 群と B 群の運動 FIM の平均の差は、B 群に有意差がみられた($p<0,05$)。今回の調査から運動 FIM の点数により、興味のある生活行為や外出練習の場所が変わってくることがわかった。今後の課題は、A 群にも趣味活動や社会参加を促せるような外出練習を実施していくことである。